

令和 7 年 1 月 2 日

東員町議会

議長 南部 豊 様

教育民生常任委員会 委員長 片松 雅弘

## 研修報告書

研修期間	<u>令和 7 年 10 月 7 日 (火) ~ 10 月 8 日 (水)</u>
研修 (視察) 先	岡山県美咲町役場・兵庫県加古川市
目的 (テーマ等)	地域づくりについて・ごみ減量に向けた取り組みについて
参加議員名 (複数の場合)	片松雅弘・三林 浩・山崎まゆみ・大谷勝治・広田久男・大崎昭一
資料添付の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

10月7日 岡山県美咲町役場 テーマ「地域づくりについて」

あえて「人口減少を受け入れるまちづくり」を掲げた自治体でした。

人口約1万3000人の岡山県美咲町は、この10年で人口が2500人ほど減少して「消滅可能性都市」と指摘された自治体の1つです。

中山間地にあって人口減少や高齢化が50%を超える町で、暮らしを持続可能にするために取り入れられた「賢く収縮するまちづくり」を推進されてきました。

また、課題や希望を把握する方法もユニークで、若い世代の意見も視野に入れ、世帯主だけでなく、中学生以上の全員にアンケート調査を行い、地域の課題を把握していました。

例えば「道路・河川・地域の美化・高齢者の見守り・子育て環境」といった項目を、満足度や重要性について5段階で回答してもらう調査を行い、今後の活動内容に優先順位をつける。

地域ごとに課題は異なり、一律にアンケート調査を実施しても無駄が生まれる。

美咲町の公共施設の半数以上は築30年以上経過し、老朽化によって維持費もかさんでいました。

何かを始めるには、何かを削る覚悟が必要と話し、図書館や公民館、保健センターなどは、それぞれの機能を併せ持つ施設にして効率化を図っていました。

また、赤字の続く温泉施設を閉鎖し、児童生徒の少なくなっていた小中学校を統合して「小中一貫校」を導入していました。

美咲町では、これらの取り組みによって、今後40年間で公共施設にかかる予算を約46%削減するとしています。

町民からの反発も多く、褒めてくださる方はほとんどいません。公共施設には長年親しんでいますから「総論賛成・各論反対」の状態で、住民説明会では4時間から5時間、批判にさらされたこともあります。

また、青野町長の言葉で「1人の1000歩よりも1000人の1歩と話された言葉は、意味が深く、自ら行動をしていく姿勢は職員だけに押し付けるのではなく、町長自ら現地に出向き、一緒に取り組む姿勢は見習うべきだと強く感じ、感動しました。

合言葉は「賑やかな過疎」と話され、楽しみながら活動することにこだわっていました。

東員町でも高齢化や担い手不足から、自治会の在り方や今後の存続に、各自治会が悩まれている現状で、第一中学校建設にあたり莫大な費用が掛かっているため、今後、財政が厳しくなることは目に見えていますし、老朽化する公共施設の課題など問題は山積みです。

高齢化しても人口が減っても町の面積は変わらない。

必要なものは充実させつつ、町を人の在り方に合わせ縮小していくなど、ハコモノ推奨から決別し、人口減少や高齢化を正面から受け止め、町を作り替えていく時期に来ていると感じました。

「公共施設等総合管理計画」や「公共施設カルテ」などを活用して、今後、廃止・解

体・売却等を踏まえた施策を共に考え、行政への提案をしていかなくてはならないと強く思います。

## 10月8日 兵庫県加古川市 ごみ減量に向けた取り組みについて

どこの市町村でも取り組んでいかなくてはならない「ごみの減量化」という課題について、加古川市の取り組みを学んできました。

加古川市の凄い取り組みは、各地区で集めたごみをブルーシートの上に広げ、手作業で分別し「ごみ質組成調査」を行い、どんなごみがあるのか徹底的に調べるという事です。

それにより、何があり何を減らすことができるのかが一目瞭然になります。

各自治体は減らすこと目標にはしていますが、行政が徹底的に手作業で分別し、現状を把握することまで取り組む姿勢には感銘を受けました。

加古川市の施策のうち、「剪定枝の資源化」「粗大ごみの個別有料収集」「事業系ごみの搬入検査」の減量効果が大きかったとの説明を受けました

また、平成27年にごみ減量についてのアイデアを募集し「冷蔵庫の中身チェック表」が選ばれ、ユニークな啓発活動もされています。

「剪定枝」は委託先で、チップやエタノール、肥料に再利用。

「粗大ごみ収集」は、市民からの事前に電話、またはインターネットやFAXでの収集申し込み後に、コンビニ等で処理券を購入します。

指定日に家庭まで担当班が出向き、収集運搬を行い、処理施設で処分又はリサイクルします。

東員町でも粗大ごみの搬出が困難な高齢者世帯など、粗大ごみを指定場所まで運ぶ負担が軽減できることは、東員町でも必要となっていると思います。

また「小学校4年生夏休みごみ減量チャレンジ」では、環境学習を始める小学4年生を対象に、夏休みの間に家庭のごみ出しを手伝いながら、分別を?掲載した「雑がみ保管袋」を配布しています。

「でまえどり運動」や「おいしい食べきり運動」といったネーミングで親しみやすく参加を促すうえで効果的だと思います。

また、リユース意識の向上と、ごみ減量につなげるため「(株)ジモティ」やネット型リユースプラットホーム「おいくら」と連携協定し、必要とされるリユースも促進しています。

行政だけの考えだけではなく、住民を巻き込んで「子どもから年配の方まで」楽しく参加できるアイデアや意見を募り、進めている点は、ぜひ担当課と意見交換を行い、本町として実施できることがあれば求めていきたいと思います。

